

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	北海道横断自動車道 <small>ほんべつ くしろ</small> 本別～釧路	事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局						
起終点	自： <small>ほっかいどうなかがわ</small> 北海道中川郡本別町 共栄 至： <small>ほっかいどうくしろ つるの</small> 北海道釧路市鶴野	延長	65.0 km								
事業概要 北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、夕張市、清水町、本別町等を経由して、根室市・網走市へ至る延長約694 kmの高速自動車国道である。 このうち本別～釧路は、高速ネットワークの拡充による釧根圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援を目的とした、本別ICから釧路IC（仮称）に至る延長65.0 kmの事業である。											
H15年度事業化	H一年度都市計画決定 （H一年度変更）	H16年度用地着手	H16年度工事着手								
全体事業費	約2,072億円	事業進捗率	80%	供用済延長	8.0 km						
計画交通量	5,400～6,000台/日										
費用対効果 分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C</td> <td style="width: 10%;">1.3</td> </tr> <tr> <td><small>（事業全体）</small></td> <td></td> </tr> <tr> <td><small>（残事業）</small></td> <td>7.7</td> </tr> </table>	B/C	1.3	<small>（事業全体）</small>		<small>（残事業）</small>	7.7	総費用 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 291/2,335億円 （事業費：235/2,217億円） 維持管理費：56/118億円	総便益 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 2,229/3,128億円 （走行時間短縮便益：1,843/2,575億円） 走行経費減少便益：300/424億円 交通事故減少便益：86/129億円	基準年 平成26年	
B/C	1.3										
<small>（事業全体）</small>											
<small>（残事業）</small>	7.7										
感度分析の結果 <small>事業全体および残事業について感度分析を実施</small> 【事業全体】 交通量：B/C= 1.2～1.5（交通量±10%） 事業費：B/C= 1.3～1.4（事業費±10%） 事業期間：B/C= 1.3～1.4（事業期間±20%） 【残事業】 交通量：B/C=6.6～8.7（交通量±10%） 事業費：B/C=7.0～8.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=7.3～7.9（事業期間±20%）											
事業の効果等 ①主要都市間の利便性向上 ・釧路市と札幌市間の所要時間が夏期で47分（冬期は72分）短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。 ②災害発生時の緊急輸送ルートの強化 ・大規模な迂回の回避や津波時の緊急避難道路としての活用が想定されるとともに、災害により被災した地域からの迅速な救急搬送や救援物資等の輸送の確実性が向上する。 ③物流の利便性向上 <国際コンテナの物流効率化> ・狭小トンネルや線形不良区間を回避した国際コンテナの輸送が可能となるほか、釧路港と帯広市間の所要時間が夏期で45分（冬期は67分）短縮され、釧路港との物流効率化が期待される。 <水産品の流通利便性向上> ・道内各地のみならず苫小牧港・小樽港等から全国各地へ出荷される水産品（さんま：12.5万t/年）の流通利便性向上が期待される。 <石油製品の流通利便性向上> ・釧路港から十勝方面への所要時間が夏期で41分（冬期は60分）短縮され、石油製品の流通利便性向上が期待される。 ④救急搬送及び血液輸送の安定性向上 ・帯広と釧路の血液センター間の所要時間が夏期で13分（冬期は48分）短縮されるなど、救急搬送及び血液輸送の安定性向上が期待される。 ⑤主要な観光地への利便性向上 ・道央圏との所要時間が夏期で43分（冬期は63分）短縮され、主要な観光地への利便性向上が期待される。 ⑥CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量33,643（t-CO ₂ /年）の削減が期待される。											

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

釧路市・帯広市など6市14町村の首長等で構成される「北海道横断自動車道早期建設促進期成会」等より、早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による道央・十勝・釧路圏の連絡強化により地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、平成2年12月3日付け道路第1322号「北海道横断自動車道小樽釧路線（阿寒町～釧路市間）に係る環境影響評価準備書に関する意見について」の知事意見を尊重すること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道が池田IC～浦幌IC、足寄ICまで開通
- ・国道38号 釧路新道 全線開通（暫定2車線を含む）
- ・市町村合併により、「釧路市」が誕生
- ・釧路港が国際バルク戦略港湾（穀物）に選定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成15年度に事業化、平成16年度に工事着手して、用地進捗率66%、事業進捗率80%となっている。（平成26年3月末時点）

平成21年度：本別IC～浦幌IC間 延長8.0km（2/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

平成26年度：浦幌IC～白糠IC間 延長26.0km（2/4）開通予定

平成27年度：白糠IC～（仮称）阿寒IC間 延長14.0km（2/4）開通予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等に変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

対応方針

事業継続

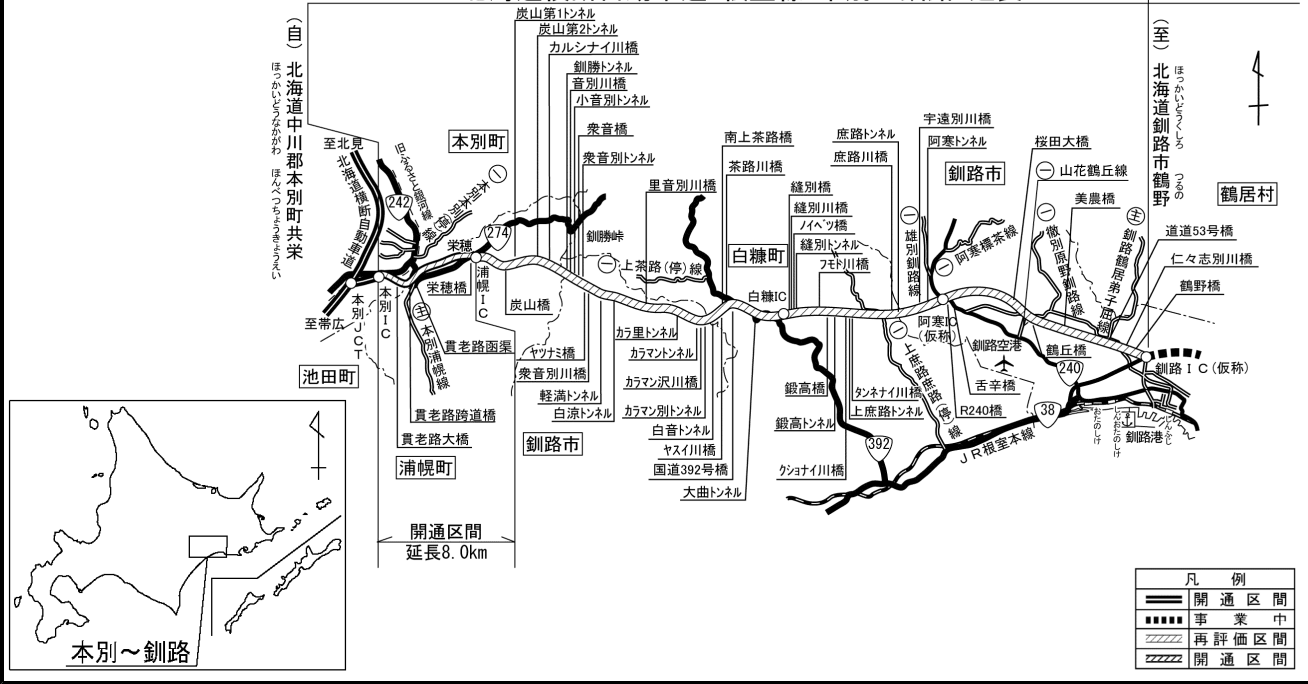
対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

北海道横断自動車道 根室線 本別～釧路 延長65.0km

釧路外環状道路



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。